

低温対策について（5/22）

農業普及技術課
農業革新支援担当

5月23日の最低気温は、平年よりかなり低いと予想され、霜注意報が発表されています。農作物の管理に注意し、低温の影響が想定される場合は速やかに対策を施してください。

1 気象情報

気象庁の2週間気温予報（5/22）によると、5月23日は、最低気温が平年よりかなり低いと予想され、霜注意報が発令されました。気象情報・注意報や気象予報等に留意し、低温対策を徹底しましょう。

2 低温対策

(1) 水稲

ア 田植え

できるだけ田植えを避け、風の少なく暖かい日に行います。

イ 田植え直後の管理

葉先が2～3cm水面に出る程度の深水管理で苗を保護します。

ウ 活着後の管理

低温時は、葉先が水面に出る程度の深水管理で苗を保護します。

低温の恐れがなくなったら、分けつの促進のため、浅水管理としてください。

(2) 野菜

ア 果菜類

施設果菜類では、事前に側窓や妻窓を閉めるとともに、必要に応じて内張や補助暖房等を利用して温度の確保に努めます。

なお、施設栽培や露地トンネル作型の場合、早朝が低温であっても、日中は晴天により気温が急に上昇して萎れる場合がありますので、換気を行い気温が徐々に上昇するように管理します。

露地果菜類では、これから定植を予定している作型は気温が高くなるまで定植を控えます。すでに定植している作型はトンネルビニールや不織布等を利用して温度の確保に努めます。

障害果の発生が見られた場合は、早めに摘果して着果負担を軽減します。また、草勢が低下した場合は、着果する節位を上げて草勢の確保に努めます。障害を受けた部分から病害が発生しやすくなりますので、殺菌剤の予防散布を行います。

イ 露地葉菜類

露地葉菜類では、降霜が予想されるような場合は定植を控えます。定植間もない作型では、べたがけ資材等を利用して被害の軽減に努めます。

生長点に降霜などの影響がある場合は、収穫が見込めないので植え替えなどを行うとともに、影響が軽い株では、障害を受けた部分から病害が発生しやすくなりますので、殺菌剤の予防散布を行います。

(3) 果樹

ア リンゴ

摘果は、低温による被害の様相を確認した上で進めてください。幼果期の低温・降霜により、サビ果や奇形果、亀裂の発生や、落果が見られることがあります。予備摘果では果実を多めに残し、仕上げ摘果でよい果形のものを残すように吟味します。

また、中心果が被害を受けた場合は、果形や肥大が良好で障害が少ない側果を利用してください。なお、仕上げ摘果の終了時期は、翌年の花芽確保のため、過度に遅れないよう注意します。

イ ぶどう

新梢及び花房への影響を確認します。摘房の作業は、房の良否が確認でき次第、実施します。なお、摘房時期が遅くなった場合は着房数は制限してください。

新梢の枯死した部分は除去し、副梢を利用します。花房周辺の葉が枯死した場合は、周辺の副梢葉を残し代用してください。副梢の発生が多い場合は、葉を2枚程度残して摘心します。

被害が大きく、新梢の基部数節を残してその先全体が枯死した場合は、基部1節を残して枯死部は除去します。1節目の副梢または基底芽の新梢を養成し、次年に備えます。着房した場合は樹勢調整に利用します。新梢全体が枯死した場合は、基部付近の基底芽（不定芽）から発芽した新梢を養成し、次年に備えます。

ウ 果樹共通

被害が激しい園地でも、次年度に備え、病虫害防除や最低限の栽培管理は実施してください。

(4) 畜産

ア 飼料用とうもろこし

霜害は、生育初期から本葉8～10枚頃まで注意が必要です。降霜があった場合は、被害株の再生の可否を判断します。

葉が紫色になったものは、低温に遭遇したことにより一時的にアントシアニンが生じたものなので、回復します。

降霜により葉が茶色になっていても、生長点が凍結しなければ回復します。目安として2～3葉期の場合、播種時の覆土が2cmより深いと再生し、浅いと枯死する可能性が高くなります。株の状態を良く観察してください。

再生の可能性が低いと判断される場合は直ちに播き直しを行います。播き直す場合は収穫期に確実に登熟するように、初めに播種した品種よりも相対熟度が小さい早生品種を選びます。